

世田谷区議会企画総務常任委員会（12月1日開催）で出された意見

No	意見
1	<p>町会・自治会の充実といったことがあまり議論されていないように感じる。これまで世田谷区では、町会・自治会のリーダーとなる方が地域をまとめ、いろんな意見をバランスよく取り上げた中で判断し、地域をまとめてきている。新しいことを取り入れることも非常に大事だが、地域のリーダーを育てる環境が足りなくなっているところも事実であり、区民の町会・自治会に対する価値観が薄れてきていることが一番の原因だと考える。いくら新しい意見を取り入れていったとしても、地域でそれを判断する、バランスよく判断できる人がいなければ、バラバラになってしまうばかりになる。町会・自治会、さらに商店街など、地域をまとめるリーダーを育てていく環境が必要。そういった意見があまりいないようなので、ぜひ取り上げて議論してほしい。</p>
2	<p>「子どもどまんなか」と「リカレント教育」という言葉が出てきているが、これまでも地域では子どもを一番大切に思ってきたし、いかに地域で子どもの豊かな心を育てていくかという取り組みをしてきたと思う。また、リカレント教育も、自分たちが育ってきたことを踏まえながら、大人になった時に後世にいろんなことを教えていくために、自分が学ぶということを行っている。「子どもどまんなか」や「リカレント教育」については、既に地域では行ってきているということ伝えてほしい。</p>
3	<p>「一番苦しい人」という文言があるが、一番苦しい人の定義とはそもそも何なのであろうか。生活に困窮している方もいれば、精神的に苦しんでいる方もおり、苦しいということに関する考え方は多面的で多角的だと思う。何ををもって一番苦しいと言うのか。行政側が考えている苦しさと、一般の区民の皆さんが考えている苦しさが違うこともある。区として考える、また、審議会として考える「一番苦しい人」とはどのような人なのかということをしかりと定義してほしい。</p>
4	<p>世田谷区全体の世帯構成を念頭に、行政の施策を展開することが必要である。区内全50万世帯のうち、一人暮らし世帯は53%、夫婦のみ世帯が17%、全体で70%はこのような世帯構成になっており、こうした状況を踏まえることが、今後の世田谷区の行政運営にとって大変重要なことである。審議会の議論の中には、そういった世帯構成であったり、一人暮らしの方が多であったりとかいうようなことに関しての文言がちょっと見当たらない。今まで行政の考え方として、日本的な考え方だと思うが、世帯主義、どうも個人よりも世帯を重視した政策というのが多いが、憲法では基本的人権ということで個人を尊重するというようになっており、こうした考え方を取り入れていく必要がある。</p>
5	<p>国は、孤独や孤立に対する対策に向け、対策室を設けたり担当大臣を設けたりしており、それに呼応した世田谷としての政策を実現してほしいと考えている。世帯構成の変化等に伴って、区民のライフスタイル、特に孤独や孤立ということに対する行政としての対策が大変重要になってくると思うので、審議会の中でも議論を深めていただきたい。</p>

No	意見
6	委員から出された意見を見ると、多くの方がそうだよねと感じる意見が並んでいて、逆に言うと、何か議論がわかるような意見だとか、何か侃々諤々この中で健全な摩擦をしながら意見が出てくるというような、そういう雰囲気を感じられない。様々な立場の方、様々な背景を持っている方を選んで、多様性のある意見が出るように配慮されている審議会だと思うので、多様な意見が出るような舵取りをしていただきたい。
7	これまでに審議会が出された意見を見ると、どこでも通用するような、他の自治体に持っていったとしても通用するようなものであるというふうに見える。世田谷らしさ、世田谷の強み、世田谷の魅力をどういうふうに考えて、それをどう伸ばしていくのかという視点が、基本計画にはぜひあってほしいと思う。その点に関し、ぜひご議論いただきたい。また、これまで世田谷区が培ってきたもの、地域の中にあるものをしっかりと踏まえ、重みのある、厚みのある計画づくりを進めていただきたい。
8	基本計画を本当に区民、区議会、行政に役立つものとするためには、もう少し表現の仕方や見せ方を工夫し、新しい見せ方をしていくことも必要だと思っており、その辺の工夫についてもご検討いただきたい。
9	審議会の議論では、参加と協働という言葉が非常に多いが、町会・自治会に加入することが参加と協働につながると考えている。参加と協働と、町会・自治会への加入については大きな関連があると思うので、ぜひこの点をご議論いただきたい。
10	区民には様々な方がおり、「子どもどまんなか社会」と言ってしまうと、高齢者はどうなるの、障害のある人はどうなるのというように、言葉自体が独り歩きする可能性もあり、もっと慎重に取り扱う必要がある。もちろん社会的な問題の解決のためには少子高齢化ということも前提に政策を展開していく必要があるが、実際の住民の中でそういった政策に関わる人がどれくらいいるのかということも考えながら、政策全体のバランスを考えないと、住民の行政や区政に対する関心そのものが下がってしまうと思う。様々な方がいる中で、どれかを中心にこれをやるんですと言ってしまうと、関係のない人は関係ないよと思ってしまうと思う。多くの区民の皆さんが、自分のことをやってくれているんだなと思えるような基本計画にすることが大事なことであり、言い方ひとつで随分取り方も違ってくるので、その辺はしっかり検討していただきたい。